

りゅうはん  
**隆 範**

宗教家

1751(宝暦元)年～1810(文化7)年

### 1. 経歴・狭山市とのかかわり

宝暦元年(1751)、入間郡北入曾村(狭山市北入曾)の宮野家に生まれ、字(あざな)を秀明と言う。蔵王山観音院常泉寺(本尊は釈迦如来坐像 北入曾 315)に入山し、隆伝(安永4年<1775>12月19日没)から剃髪を受ける。幼少時より彼は才能に恵まれ、金剛山金乗院平間寺(本尊は弘法大師像 川崎市川崎区大師町4-48)に入山した。

大本山の五百仏山智積院根来寺(本尊は金剛界大日如来 京都市東大路通七条下ル東瓦町964)に入山する。20年間、修業を続けようとしたが、学僧や信徒の懇願により帰山し、安永9年(1780)、30歳で平間寺の主席となる。当時、平間寺の朱印は僅か6石で、本尊を安置する大師堂さえ朽ち果て、屋根から雨漏りする貧乏寺であった。

### 2. 主な業績

隆範は主席になると平間寺の復興に尽力し、明和期(1764～1772)に大師堂を修復し、鐘楼堂と表門を建立する。その間、智積院の集議席になり、多くの前で説法した。寛政元年(1789)、38歳で平間寺第33世に就任するが、以降、山主に「隆」の一字が付けられるようになった。

寛政8年(1796)、11代将軍・徳川家斉(1773～1841)が平間寺を参詣した。同10年(1798)6月、江戸の浄土宗回向院諸宗山無縁寺(本尊は阿弥陀如来坐像 東京都墨田区両国2丁目)で弘法大師像の出開帳を行うと、将軍家や御三家を初め庶民の信仰が広がった。以降、成田山金剛王院新勝寺(本尊は不動明王 成田市成田1番)や高尾山薬王院有喜寺(本尊は薬師如来・飯縄権現 八王子市高尾町2177)と並ぶ真言宗智山派三山のひとつとして栄える。

### 3. 特筆

享和3年(1803)、53歳で大綱山宝幢院光明寺(東京都大田区六郷2-52-1)の住職も兼ね、3年間で諸堂を修築する。真言宗醍醐寺派醍醐寺(本尊は薬師如来 京都市伏見区醍醐東大路町)の門主から遍照心院の院号を賜った。その後、高麗郡柏原村出身の亭子院隆円(1776～1813)に山首を譲り境内の庵に隠居するが、空海(774～835)を追想して、六十余州の奇跡や霊場を巡拝する。文化7年(1810)9月24日、享年60で没する。



隆範が入山した常泉寺(北入曾)

参考・引用文献 『平間寺史』平間寺出版部編 1934年

文責・権田恒夫